

八郎湖流域管理研究 第6号の発刊にあたって

「八郎湖流域管理研究」は、地域住民、行政・NPO関係者、研究者が八郎湖流域の現状や課題に関する正確な認識を共有し、八郎湖の水質改善や地域の活性化・持続的発展を目指して協働することへの貢献を目的として、2012年に第1号が発刊されました。第1号から丁度10年が経過しましたが、これまでご支援を頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

この10年間で湖沼法に基づく八郎湖の水質保全計画は第2期（2013年度～2018年度）が終了し、現在第3期計画（2019年度～2024年度）が進行中です。アオコの発生やCOD・栄養塩濃度など水質に関して依然厳しい状況ですが、農地からの負荷削減や湖内浄化対策が一部強化されながら継続的に実施され、水質改善に向けて一步步着実に前進しているものと考えています。私が所属する研究室では昨年1年間、秋田県八郎湖環境対策室と共同で、東部承水路（牡丹川河口域）の消波工施設で環境調査を実施しましたが、造成された湖岸に移植されたヨシが5年間ですっかり定着し、さらに浸食防止のための強固な土嚢堤を地下茎が貫通して4m程湖内に侵出していました。消波工内の底質環境や水生生物相に注視する必要があるものの、波浪や灌漑期の水位上昇の影響を乗り越えて湖岸ヨシ帯が再生しつつあり、5年、10年と長いスパンで評価して行くことの重要性を実感しました。

さらに第3期計画では、八郎湖や流域にとって望ましい将来像を掲げた秋田県の長期ビジョン「恵みや潤いのある“わがみずうみ”」の達成に向けた取り組みにも焦点が当てられています。八郎湖及び流域がもつ資源の価値を評価して保全するとともに、それらを農業、漁業等で持続的に利用するための方策が大きな課題になっています。多面的な議論に資する情報を蓄積して共有する場として、本誌が一層活用されることを期待しています。

この第6号では、八郎湖環境の改善に向けた取り組みに関する2編の論文及び八郎湖流域の水質変動に関する1編の論文を掲載しました。秋田県八郎湖環境対策室室長・石井公人氏らには、「八郎湖に係る第3期湖沼水質保全計画の概要について」と題して、現在進行中の各種対策のポイントとともに、長期ビジョンの実現に向けた課題等について示して頂きました。秋田県立大学名誉教授・片野登氏には、「八郎湖および流入河川の水質の時空間変動について」と題して、36年にわたる膨大な水質データを基に八郎湖流域の特徴について独自の視点で述べて頂きました。大潟土地改良区事務局長・下山昇氏には、「国営・県営かんがい排水事業における水質改善について」と題して、昨年着工した幹線用水路のパイプライン化事業等について概説頂きました。これらの事業は農地からの負荷削減対策として期待されています。

著者の皆様にはご多忙のところ寄稿頂き、この場をお借りして深く感謝いたします。本誌が、八郎湖流域の保全や持続可能な利用に繋がる一助となりましたら、誠に幸いです。

秋田県立大学生物資源科学部

宮田 直幸